
大沢野地域公共施設複合化事業
[リーディングプロジェクト]
基本計画

令和2年3月
富山市

目 次

1. はじめに.....	1
(1) 計画の背景と目的.....	1
(2) 計画の位置付け.....	2
2. 地域の現状と課題.....	3
(1) まちづくりの現状と課題.....	3
(2) 公共施設の現状と課題.....	4
3. 計画の基本コンセプト.....	9
(1) 整備の方向性.....	9
(2) コンセプト及び対象エリア.....	10
(3) 導入機能.....	12
4. 整備計画.....	15
(1) 計画条件.....	15
(2) 諸室整備計画.....	17
(3) 配置計画.....	21
(4) 平面計画.....	22
(5) 構造計画.....	22
(6) 設備計画.....	23
(7) 管理・運営計画.....	23
5. 事業計画.....	24
(1) 事業スキーム.....	24
(2) 事業スケジュール.....	28
(3) 概算事業費.....	28
6. 今後の検討に向けて.....	29
7. 参考（ワークショップ等の概要）.....	30

1. はじめに

(1) 計画の背景と目的

本市では、1970年代における人口の急増に伴い、学校や公営住宅、市民利用施設などの「公共建築物」や道路、橋りょう、上下水道などの「社会インフラ」（これらを総称して「公共施設等」）を整備してきましたが、これらの多くが整備後30年以上を経過しており、今後はその維持管理・修繕・更新に係る多額の経費が必要となることが見込まれています。

一方、今後の人口減少や少子・超高齢社会の進展などにより、大幅な税収等の増加が見込めない中、更新費用の確保は一層困難な状況になるものと予想されており、老朽化した施設の更新や維持管理の継続が大きな課題となっています。

このことから、本市では、長期的な視点をもって、公共施設等の統廃合や長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減や平準化を図るため、その基本方針となる「富山市公共施設等総合管理計画」を平成28年12月に、また、その具体戦略や個別施設計画である「富山市公共施設マネジメントアクションプラン」を平成30年3月に策定し、公共施設マネジメントの取り組みを推進しているところです。

とりわけ、合併前の旧町村の本庁舎であった行政サービスセンター及び中核型地区センターについては、地域のシンボルとして、長きにわたり地域住民に親しまれてきた一方で、合併後の組織体制の変更に伴い建物の空きスペースが増加していることや施設自体の老朽化が進んでいること、耐震化が行われていないことなどから、適正な規模の建物へと面積の縮減を図るとともに、市民の利便性を向上させるよう複合化を図ることとしています。

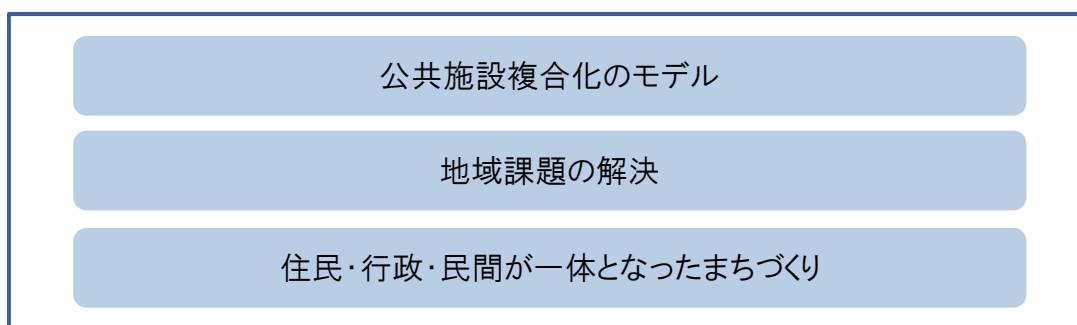
こうした中、大沢野地域においては、公共施設マネジメントにおけるリーディングプロジェクトとして、行政サービスセンターやその周辺にあるホールや公民館、図書館等の公共施設を含め、必要とする機能を改めて見直し、複合化による施設床面積の縮減や施設機能の向上を図るとともに、余剰地等へ民間商業施設等を整備することなどにより、公共施設の再編を核とした「地域活性化」を目指すこととしています。

そして、平成30年度には、地域の代表者や施設利用者等によるワークショップを計4回にわたり開催し、現状の把握や課題の整理のほか、整備コンセプトや導入機能などについて様々な議論を重ねながら、地域の皆様とともに、「大沢野地域公共施設複合化事業（リーディングプロジェクト）基本構想」を策定したところです。

本計画は、基本構想や関係課で構成する庁内プロジェクトチームにおけるその後の検討等を踏まえ、大沢野地域におけるリーディングプロジェクトの基本的な方針を示すとともに、必要となる施設の整備や管理・運営のあり方等を取りまとめるものです。

<リーディングプロジェクト>

本市において、公共施設マネジメントの観点から、今後の再編を進める上でモデルとなる事例を創出するための事業であり、行政サービスセンターやその周辺にある公共施設を含め、必要とする機能を改めて見直し、複合化の手法によって、施設の床面積の縮減や施設機能の向上を図るとともに、跡地等には地域活性化につながる民間の商業施設を整備するなど、公共施設の再編を核としたまちづくりを目指すものです。



(2) 計画の位置付け



2. 地域の現状と課題

(1) まちづくりの現状と課題

大沢野地域の総人口は今後も減少傾向が続き、令和 42 年（2060 年）には約 1.2 万人まで減少すると予測されています。年齢区分別にみると、年少人口と生産年齢人口は減少が続く一方で、高齢者人口は当面増加し、その後減少に転じると見込まれますが、高齢化率は上昇し続けるものと見込まれます。

人口の分布をみると、地域内に広く分布していますが、人口が多いエリアと少ないエリア、人口の増加がみられるエリアと減少がみられるエリアが存在しています。

「富山市都市マスタープラン」においては、大沢野地域では、大沢野行政サービスセンター及び笹津駅周辺は地域におけるまちづくりの核となる地域生活拠点、大沢野総合運動公園周辺はみどりの拠点、大沢野健康福祉センター周辺は健康福祉拠点、猿倉山森林公園周辺は自然とのふれあいの場として位置付けられています。その他、神通峡県定公園は森林を生かしたレクリエーション拠点として指定されています。

また、富山市都市マスタープランに基づく居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共機能の充実等に関する計画である「富山市立地適正化計画」では、大沢野地域は運行頻度の高いバス路線である国道 41 号沿いで、用途地域が設定されたバス停から半径 300m の範囲が「居住誘導区域（居住を誘導するエリア）」及び「都市機能誘導区域（都市機能を誘導するエリア）」として定められています。

しかし、今後の人口の推移では、居住誘導区域に人口が集中することが予想されるものの、その中心は地域生活拠点である大沢野行政サービスセンター及び笹津駅周辺ではなく大久保地区になると予想されており、老朽化の進んでいる都市機能について更新を図り、地域生活拠点の拠点性を高めることが今後の課題であると考えられます。

また、民間施設の立地状況をみると、日常生活に必要な機能である医療施設（病院・診療所）、商業施設（食料品店・コンビニエンスストア）等が居住誘導区域内に多く立地しています。

(2) 公共施設の現状と課題

1) 公共施設の現状

大沢野地域には、公共施設が45施設立地しており、その総延床面積は約9.6万㎡、人口1人当たりの延床面積は約4.4㎡となっています。

また、稼働率が低い施設や利用人数が少ない施設が多く、費用対効果の面からも利用率の向上や維持管理費の削減が求められています。

図表 1 大沢野地域の公共施設の概要

No.	施設分類	施設名	延床面積 (㎡)	築年数 (年)	利用状況 (平成28年度)
1	集会施設	大沢野公民館	107.25	29	3.6% (稼働率)
2	集会施設	大久保公民館	168.20	16	5.2% (稼働率)
3	集会施設	船峯公民館	331.20	43	3.9% (稼働率)
4	集会施設	小羽公民館	331.20	42	2.3% (稼働率)
5	集会施設	下夕北部公民館	331.20	41	4.7% (稼働率)
6	集会施設	下夕南部公民館	397.20	40	4.3% (稼働率)
7	集会施設	船峯地区福祉センター	296.60	23	1.7% (稼働率)
8	集会施設	小羽地区福祉センター	217.63	22	3.7% (稼働率)
9	集会施設	下夕南部地区福祉センター	157.90	21	2.1% (稼働率)
10	集会施設	下夕北部地区福祉センター	216.22	20	4.2% (稼働率)
11	集会施設	大沢野北部地区福祉センター	171.78	15	6.3% (稼働率)
12	文化施設	大沢野文化会館	6,724.80	39	25,844人 (利用人数)
13	文化施設	大久保ふれあいセンター	2,213.78	16	25.9% (稼働率)
14	図書館	大沢野図書館	1,042.00	29	42,213人 (利用人数)
15	社会教育センター	大沢野生涯学習センター	3,517.53	29	27,484人 (利用人数)
16	スポーツ施設	青少年体育センター	973.00	45	9,385人 (利用人数)
17	スポーツ施設	下夕南部体育館	384.00	37	1,119人 (利用人数)
18	スポーツ施設	下夕北部体育館	483.55	36	277人 (利用人数)
19	スポーツ施設	屋内競技場	8,278.98	8	96,391人 (利用人数)
20	スポーツ施設	大沢野プール管理棟	218.40	26	-
21	スポーツ施設	大沢野武道館	468.00	43	4,004人 (利用人数)
22	スポーツ施設	大沢野野球場管理棟	220.00	25	9,115人 (利用人数)
23	スポーツ施設	陸上競技場管理棟	752.00	32	12,564人 (利用人数)
24	レクリエーション・観光施設	猿倉山森林公園	816.05	32	15,652人 (利用人数)
25	レクリエーション・観光施設	大沢野健康福祉センター	8,383.61	22	313,754人 (利用人数)

No.	施設分類	施設名	延床面積 (㎡)	築年数 (年)	利用状況 (平成 28 年度)
26	学校	大沢野小学校	11,835.78	20	550 人 (生徒数)
27	学校	大久保小学校	6,585.11	61	435 人 (生徒数)
28	学校	船峯小学校	4,174.16	29	68 人 (生徒数)
29	学校	大沢野中学校	10,876.51	37	610 人 (生徒数)
30	幼保・こども園	笹津保育所	830.18	48	26 人 (児童数)
31	幼保・こども園	大沢野西部保育所	677.23	41	80 人 (児童数)
32	幼保・こども園	船峯保育所	679.80	39	37 人 (児童数)
33	幼保・こども園	大久保保育所	1,292.99	18	166 人 (児童数)
34	幼保・こども園	大沢野幼稚園	980.28	42	52 人 (園児数)
35	幼保・こども園	大久保幼稚園	1,432.09	15	52 人 (園児数)
36	幼児・児童施設	大沢野児童館	869.54	12	37,275 人 (利用人数)
37	幼児・児童施設	大久保児童館	739.88	16	53,102 人 (利用人数)
38	高齢者福祉施設	大沢野老人福祉センター	619.71	22	45,961 人 (利用人数)
39	高齢者福祉施設	大沢野高齢者いきがい工房	721.04	17	7,401 人 (利用人数)
40	庁舎等	大沢野行政サービスセンター	4,450.88	45	-
41	消防施設	大沢野消防署	1,194.55	41	-
42	その他行政系施設	大沢野斎場	772.91	33	-
43	公営住宅	笹津団地 (市営住宅)	9,401.64	19	-
44	公営住宅	稲代団地 (賃貸住宅)	382.46	30	-
45	その他	大沢野地区産業会館倉庫	192.15	49	-

※ 築年数は、平成 30 年度時点。

2) 地域住民によるワークショップで出された課題

基本構想の策定に当たり、地域における公共施設の課題の把握とその解決を図るため、地域の代表者や施設利用者等によるワークショップを開催しました。ワークショップでは、大沢野地域における公共施設の課題やあり方、求める機能等について、施設分類やまちづくりの視点から活発な意見交換が行われました。

① 施設分類別の課題

ワークショップで出された施設分類別の課題としては、

- 各地区におけるコミュニティの場となる集会施設については利用率が低い施設が多い一方で、類似の機能を持つ施設があるなど、効率化が図られていないこと
- 庁舎については人員に対して施設規模が過大になっており、多くの空きスペースが発生していること

などが挙げられます。

図表 2 施設分類別の課題

施設分類	課題
集会施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 集会施設は避難所としても利用されるが、一部の施設では地区住民に対して十分な規模となっていない。 <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域介護の拠点としても利用されており、再編によって遠くまで行かなくてはならなくなるのは問題だ。 ● 規模を縮小した場合、地区の住民が交流する場が減ってしまう。 ● 規模を縮小した場合、避難所としての機能が不足しないか心配だ。 ● 代替施設があるなら、再編して財政負担を減らす方がよい。
文化施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが集いやすいスペースとなっていなかったり、成人式や小学校の合同発表会を開催できるスペースがないなど、施設が利用ニーズと合っていない。 <p>【廃止した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の類似施設では代替できないものについては、新しく機能を確保する必要がある。
図書館	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学区によっては、子どもたちが自転車で行くことができず、送迎が必要となるなど、利用しにくくなっている。
その他社会教育施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用申請等が効率化されていないため、利用しにくくなっている。

施設分類	課題
スポーツ施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 室内で子どもたちが気軽に遊んだり、運動したりできる場が必要だが、現在はそのような利用をされていない。 ● 地域内に体育館が複数設置されているが、利用率が非常に低い施設や認知度が低い施設もある。 ● 一部の施設は老朽化が進んでいる <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廃止された場合、避難所としての機能が不足しないか心配だ。 ● 廃止された場合、現在の利用者の活動の場がなくなる。
レクリエーション・観光施設	<p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種教室等を目的に訪れる元気な高齢者の利用が多いが、レクリエーションとみなされて縮小されると、介護予防の観点から問題だ。
学校	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒数がピーク時より大幅に減少しており、空き教室が発生しているが、地域の活性化や多世代交流の場として活用されていない。 ● 小、中学校の駐車場は、(行事の際に) 不足しており、十分に確保されていない。 ● 少人数教育等多様な教育を選択できる仕組みになっていない。 ● 一部の施設は老朽化が進んでいる。 <p>【統廃合した場合の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域にとって子どもの存在は大切であり、規模に関わらず学校があることは重要だ。 ● 統廃合した場合、通学距離が長くなるため、通学時の安全性を確保する必要がある。 ● 統廃合した場合、避難所としての機能が不足しないか心配だ。
幼保・こども園	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安心して子どもを育てられる環境が整っていない。
幼児・児童施設 (児童館)	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童館、学童保育、中高生の居場所等が不足している。 ● 駐車場が狭く、迎えの際に待ち合わせができないなど、利便性、安全性に問題がある。
高齢者福祉施設	<p>【現状課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者向け施設は大沢野地区に集中しているが、今後は大久保地区で人口が増える。 ● 特定の利用者・コミュニティが利用していることが多く、新しい利用者が入りにくい状況がある。

施設分類	課題
庁舎等	【現状課題】 <ul style="list-style-type: none"> ● どの部署に行けばよいかわからないなど、利用しにくくなっている。 ● 行政サービスセンターは規模が大きいため、コンビニエンスストアやインターネットでの手続きを活用してスペースを縮小すべきだ。

② まちづくりの視点からの課題

まちづくりに関する意見を視点別に整理するとともに、公共施設等の課題をそれぞれの視点に対応するよう整理したところ、主な課題として、住民が集まりやすい交通利便性のよい場所に、幅広い世代の住民が交流を図り、子どもも集まれる施設を整備することや、公共施設に係る将来的な負担の軽減等が必要であることなどが挙げられました。

図表 3 課題の視点と意見

課題の視点	課題に関する意見
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 中山間地にも住み続けられるようなサポートがない。 ● 交通アクセスがよく、多世代交流を図れる施設がない。
子育て環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちが集いやすいスペースとなっておらず、利用しにくい。 ● 室内で子どもたちが気軽に遊んだり運動したりできる場がない。
将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 代替施設があるなら再編して財政負担を減らす方がよい。 ● コンビニエンスストアやインターネットでの手続きの活用を図り、行政サービスセンターの規模を縮小すべき。

3. 計画の基本コンセプト

(1) 整備の方向性

1) 地域課題解決のための「多世代交流拠点」を整備

平成30年度に開催したワークショップでは、まちづくりの核と位置付ける地域生活拠点における都市機能の向上を図り、拠点性を一層高めることが重要であるとの意見が多くありました。

また、交通アクセスのよい場所に多世代交流が図れる場がなく、地域における関わりや連帯感が失われつつあることから、これらを公共施設整備によって実現させていく必要性にも多くの方が賛同しました。

このことから、大沢野地域においては、まちづくりの核と位置付ける地域生活拠点において公共施設を集約し、多世代が利用しやすく、多様な活動が可能な施設を整備することにより、都市機能の向上や地域の活性化を図ることとします。

2) 公共施設再編のための新規施設整備と複合化

大沢野地域の公共施設には、老朽化が進み、安全性に不安のある施設のほか、稼働率が非常に低く、利用者のニーズに合っていない施設もあることから、更新の際には、安全性と必要な機能を確保することに加え、人口減少を見据え、公共施設の総量縮減による財政負担の軽減を図る必要があります。

このことから、既存の公共施設を複合化し、新規に複合施設として整備することにより、必要な機能と安全性を確保しつつ、施設総量の縮減を図り、整備費・維持管理費等の軽減を図ります。

なお、必要な機能の確保に当たっては、新規の複合施設だけでなく、既存の公共施設のうち、安全性が確保できる施設の全部又は一部を活用することにより、将来市民の財政負担の軽減にも十分に配慮することとします。

3) PPP手法の導入

財政負担を軽減するだけでなく、民間事業者が持つ様々なノウハウを生かし、公共施設の利用者満足度の更なる向上を図るため、PPP (Public Private Partnership) 手法の導入について検討します。

また、複合化によって生まれる跡地等には、民間事業者の能力を活用し、観光や商業など、地域を活性化させる地域生活拠点としてふさわしい都市機能の誘致（余剰地活用事業）を目指します。

(2) コンセプト及び対象エリア

1) コンセプト

ワークショップにおける意見を踏まえ、まちづくりの核となる地域生活拠点における都市機能の更なる向上や、幅広い世代の人々が集い、交流することができる場の確保による地域の連帯感や絆の醸成を図るため、「多世代交流拠点」をコンセプトとします。

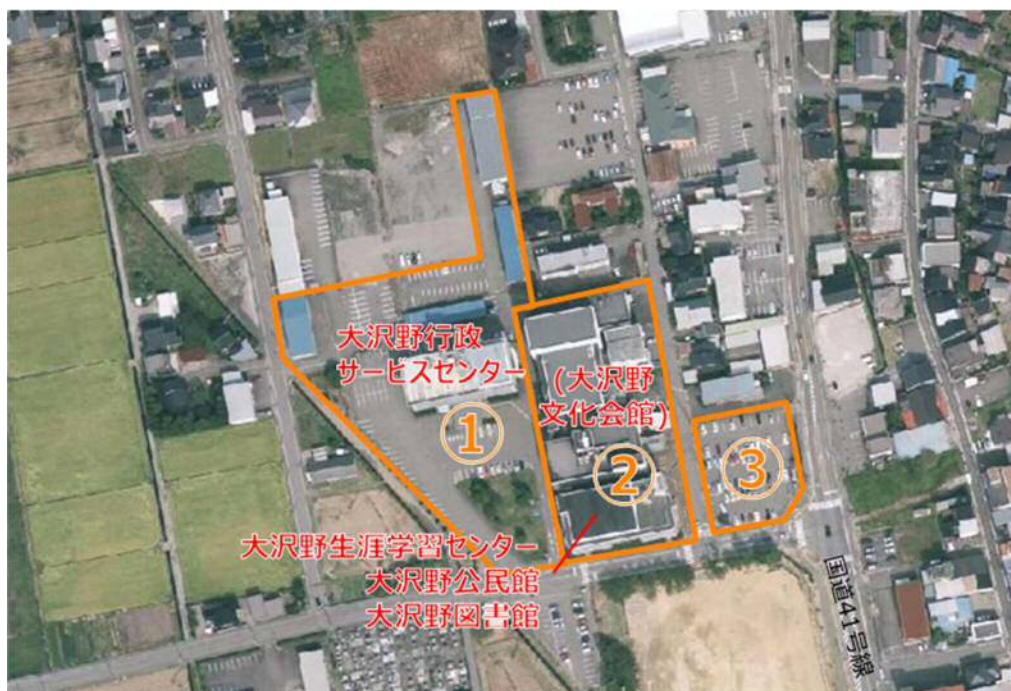
<コンセプトのイメージ>

- ・ 機能を複合化し、様々な用途で使用可能なスペースを用意することで、多様なニーズに対応し、多世代が利用できる施設とします。
- ・ イベントや商業活動を行うためのスペースや、大沢野ならではの特性を生かした学びや遊びの場を用意することで、地域内外の方々が気軽に訪れることができる施設とします。
- ・ 大沢野地域の方々の文化活動の場を確保し、交流の促進に資する施設とします。
- ・ 高齢者や子育て世代、学生などの若者にとっても利用しやすい魅力的な施設とし、幅広い世代の方々が集い、交流することができる施設とします。
- ・ 行政機能やコミュニティ機能、文化機能等を複合化し、利便性の高い施設とします。

2) 対象エリア

大沢野地域の課題である地域生活拠点における都市機能の向上を図るため、地域生活拠点であり、かつ老朽化した公共施設が集積している大沢野行政サービスセンター周辺において複合施設を整備します。

図表 4 対象敷地



敷地	敷地面積	建蔽率	容積率	用途地域
①	約 12,000 m ²	60%	200%	第一種住居地域
②	約 6,500 m ²	60%	200%	第一種住居地域
③	約 2,000 m ²	60%	200%	準工業地域

※敷地面積については、未測量のため、現時点では概算です。

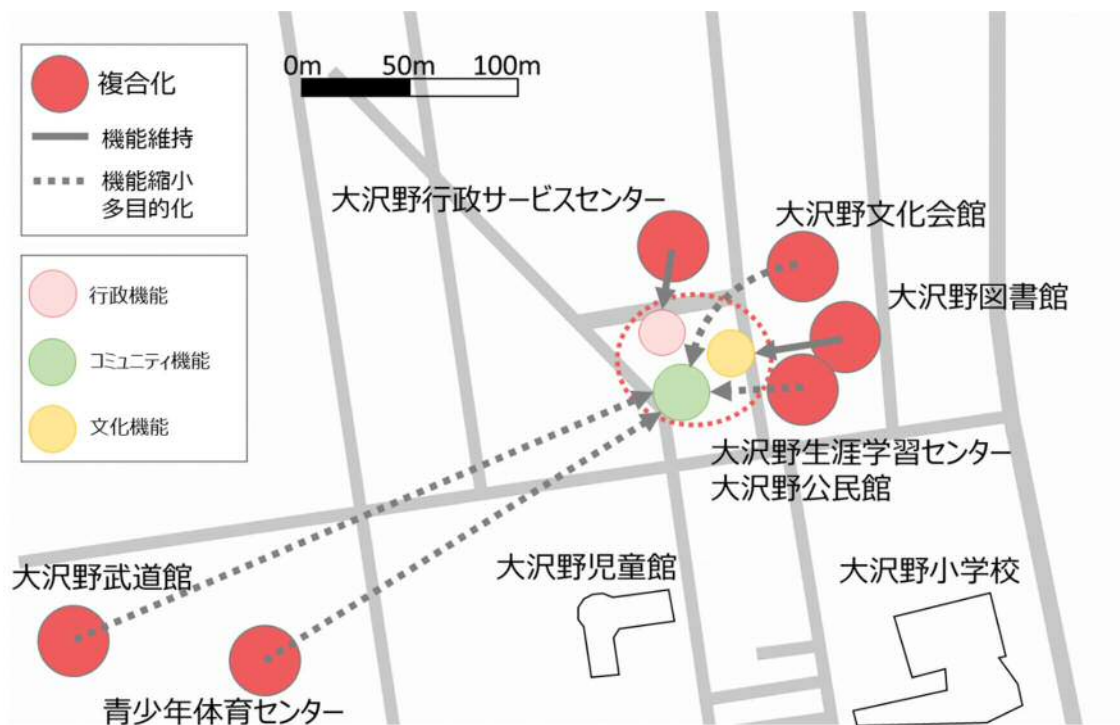
(3) 導入機能

ワークショップにおける意見を踏まえ、大沢野行政サービスセンター、大沢野生涯学習センター、大沢野公民館、大沢野図書館、大沢野文化会館、大沢野武道館、青少年体育センターの必要な機能を確保した複合施設を整備します。

複合施設の規模については、窓口や福祉等の行政サービスの維持・確保、床面積の縮減による整備費・維持管理費の負担軽減の観点を中心としつつ、単なる既存機能の更新ではなく、複合化による効果の最大化により多くの住民にとってより良いサービスを提供できるよう、機能の向上やこれまでにない使い方ができる施設とすることを目指します。

また、余剰地活用事業として、民間事業者からの提案をもとに、複合化によって生まれる跡地等に、地域を活性化させる地域生活拠点としてふさわしい民間収益施設の誘致を目指します。

図表 5 概念図



1) 複合施設の機能

① 行政機能

窓口サービスや業務内容など、現在の機能は維持しますが、施設規模は縮小します。ただし、他の機能との複合化により、より利便性が高まるよう検討します。

図表 6 主な業務内容

名称	主な業務内容
大沢野行政サービスセンター 総務課	住民の地域活動の支援に関する事務、関係部局との連絡調整により実施する窓口サービス
大沢野行政サービスセンター 地域福祉課	生活保護相談、民生委員との連絡調整、児童福祉、母子・父子寡婦福祉、こども・妊産婦・ひとり親家庭等医療費助成、保育所入所等の申請受付・審査・決定、後期高齢者医療、障害者・高齢者福祉の申請受付・審査・決定、要介護認定等申請受付、地域包括支援センター、国民年金・国民健康保険の届出・申請受理等
大沢野行政サービスセンター 市民生活課	住民票、戸籍、印鑑登録・証明、マイナンバーカード交付等、税証明、住民自治の推進、市民相談、消費生活、ボランティア、地区センターとの連絡調整、交通安全、防犯、女性・青年団体活動支援、スポーツ団体育成、おでかけ定期券等
大沢野保健福祉センター	大沢野・細入地域内における各種健康診査及び健康相談、訪問指導、栄養相談及び指導、福祉に関する相談
大沢野教育行政センター	大沢野・細入地域内における教育行政全般（学校教育に関する連絡調整・協議、社会教育（生涯学習）に関する事項）

② コミュニティ機能

大沢野生涯学習センター、大沢野公民館の機能を一体化した「地域交流センター」を設け、学校や地域の催しのほか、各種サークル活動や軽運動など、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方々が様々な用途で利用できるスペースを確保します。

また、大沢野武道館、青少年体育センターは廃止しますが、大沢野文化会館（平成29年3月廃止）と併せて、様々な用途で利用できる多目的ホールとしてその機能を確保します。

③ 文化機能

大沢野図書館は、現在の機能を維持しますが、延床面積は縮減します。ただし、他の機能との連携等により、サービスの更なる向上を図ります。

また、大沢野地域にゆかりのあるノーベル賞受賞者を紹介するとともに、科学の面白さを体験できるコーナーを設置し、子どものみならず親子で気軽に楽しく科学と触れ合い親しむことができる空間の整備を検討します。

2) 活用する既存施設の機能

平成2年に建設した大沢野生涯学習センターは、耐震化に対応しており当面使用が可能であることから、一部改修の上、行政機能の一部として存続させ、複合施設との一体的な活用を図ることとします。

図表 7 主な業務内容

名称	主な業務内容
農林事務所	農業・畜産業の振興、担い手育成、経営所得安定対策、土地改良、農道整備、林業振興、治山・林道整備
土木事務所	道路の整備・維持管理（除雪）・占用許可、河川の整備・維持管理・占用許可、公園の整備・維持管理・占用許可、市営住宅の維持管理、災害時の応急対応業務
東上下水道サービスセンター	水道等の使用開始・中止・使用者変更、給水装置の開閉栓、水道料金等の徴収・滞納整理、上下水道施設の維持管理

3) 民間収益施設の機能（余剰地活用事業）

民間事業者からの提案をもとに、地元産品の物販や飲食など、地域内外の方々を集客できる民間収益施設の整備について、事業性を勘案して検討します。

4. 整備計画

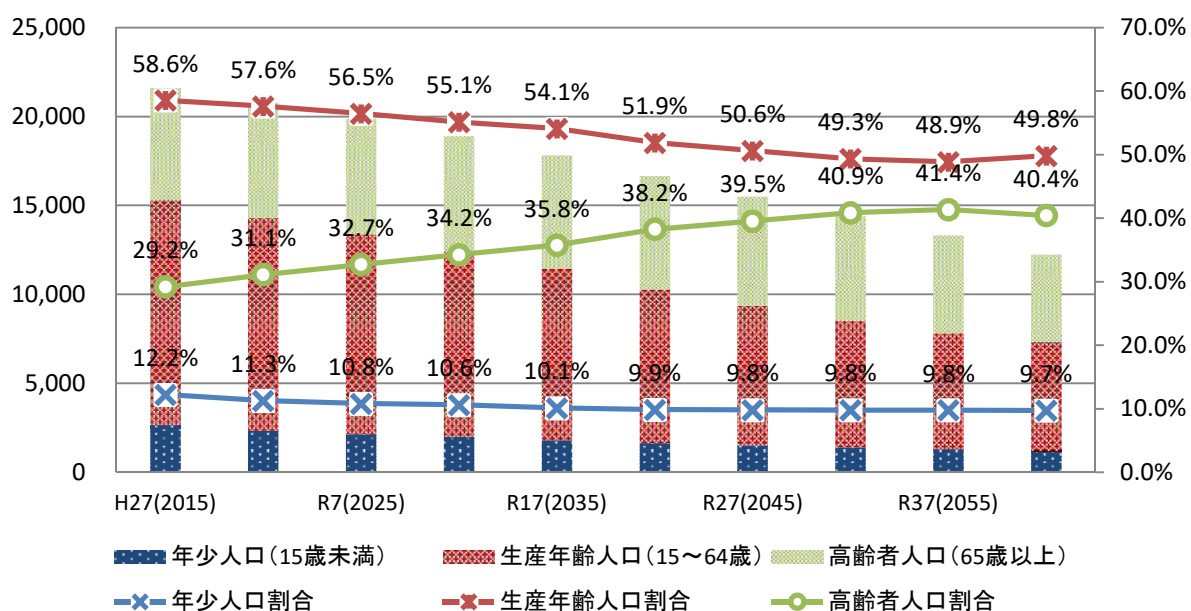
(1) 計画条件

1) 人口推移

大沢野地域の人口は、平成 27 年時点で約 2.2 万人ですが、令和 42 年までに約 4 割減少し、約 1.2 万人になると見込まれます。

また、人口区別にみると、年少人口、生産年齢人口、高齢者人口のすべての区分で大きく減少し、特に年少人口と生産年齢人口は平成 17 年時点の半数以下になると推計しています。

図表 8 将来推計人口



2) 職員数

複合化の対象とする施設の現在の職員数は下表のとおりです（令和元年5月1日現在、定数外職員含む）。今後の人口の推移等に伴う人事異動や組織体制の変更等により職員数は一定程度増減することも考えられます。

<大沢野行政サービスセンター>

名称	人数
大沢野行政サービスセンター総務課	23人
大沢野行政サービスセンター地域福祉課	14人
大沢野行政サービスセンター市民生活課	6人
大沢野保健福祉センター	5人
大沢野教育行政センター	4人
東上下水道サービスセンター	10人
農林事務所農業振興課	14人
農林事務所農地林務課	18人
土木事務所管理課	8人
土木事務所建設課	33人
計	135人

<大沢野生涯学習センター>

名称	人数
大沢野生涯学習センター	5人
大沢野図書館	4人
大沢野公民館	2人
計	11人

3) 施設規模

現在の施設の延床面積は下表のとおりです。複合施設の延床面積は、国土交通省の新営一般庁舎面積算定基準（国の機関の一般庁舎の面積算定に関する基準）のほか、現行の人員体制やサービス内容、市内の類似施設の状況等を踏まえ、約3,300㎡とします。

また、既存の大沢野生涯学習センター（大沢野公民館・大沢野図書館をあわせ約4,500㎡）は、一部を改修し、行政機能の一部として活用します。

なお、民間収益施設の面積は、民間事業者の提案によるものとします。

図表 9 複合施設等の面積

施設名	現在の延床面積	整備後の延床面積	
		複合施設	既存施設（改修）
大沢野行政サービスセンター	4,451㎡	行政機能 コミュニティ機能 文化機能	行政機能
大沢野生涯学習センター	3,518㎡		
大沢野公民館	107㎡		
大沢野武道館	468㎡		
青少年体育センター	973㎡		
大沢野文化会館	6,724㎡		
大沢野図書館	1,042㎡		
合計	約18,000㎡	約3,300㎡	約4,500㎡

(2) 諸室整備計画

複合施設及び活用する既存施設における必要諸室と整備に当たっての留意事項、想定面積は次のとおりです。なお、各必要諸室の想定面積は、今後の検討により増減することがあります。

図表 10 複合施設における必要諸室と留意事項、想定面積

	必要諸室名	留意事項	想定面積 (㎡)
行政機能 (行政サービスセンター)	執務室	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用しやすいよう低層階に配置します。 ・日常的な打合せや作業スペース、事務機器スペース、収納等を適宜確保します。 ・IT化の進展や組織体制の変更、職員数の増減等に伴うレイアウト変更にも柔軟に対応できるよう配慮します。 	320 ㎡
	会議室等	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や打合せのほか、各種選挙における投票所など、利用人数や用途に柔軟に対応できる会議室を確保します。 ・利用のしやすさとプライバシーの確保に配慮した相談室を設けます。 ・母子保健事業等で使用する診察室や多目的室を確保し、より快適かつ安全に利用できるよう配置や床材等を工夫します。 	240 ㎡
	倉庫・書庫	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の備品や書類の保管に加え、将来的な総量を想定した面積を確保します。 ・職員が利用しやすい配置とします。 	100 ㎡
	サーバー室等	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の機能を維持、充実させるため、以下の諸室を設けます。 ・更衣室は、職員数や男女比の変化に柔軟に対応できるよう、移動式の間仕切り壁とします。 (サーバー室、宿直室、給湯室、更衣室) 	100 ㎡
	小 計		760 ㎡

コミュニティ機能 (地域交流センター)	多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・最大 500 人程度が一堂に会することができ、演奏会やイベント、学校や地域のサークルによる発表会などの地域の様々な催しのほか、レクリエーションスポーツなど、幅広い用途で使用できる多目的なホールとします。 ・様々な用途での使用を想定し、倉庫や器具庫のスペースを設け、机や椅子は収納可能なものとします。 ・適切な防音、音響、耐久性能を確保するとともに、レクリエーションスポーツ活動がしやすい空間とします。 ・ホールの利用者向けに更衣室を設置します。 	610 m ²
	会議室等	<ul style="list-style-type: none"> ・会議室は、多様な利用ニーズに応えるため、集会や会議だけでなく、少人数での軽運動や工作等のサークル活動での使用も想定します。 ・可動間仕切りを設置することで、利用人数や用途に柔軟に対応し、稼働率の向上を図ります。 ・子育てサークルや各種教室などでの利用を想定し、和室や調理実習室を確保します。 ・調理実習室は料理教室や地域イベントでの賄いスペースとして、使い勝手の良いものとなるよう、レイアウトを工夫し、適切なスペースを確保します。 	300 m ²
	収納庫	<ul style="list-style-type: none"> ・備品等の保管のため、適正規模のスペースを確保します。 	25 m ²
	事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・大沢野公民館と大沢野生涯学習センターの各事務所機能を併せた事務室を確保します。 ・事務室は、職員数にあった適正規模のスペースとします。 	45 m ²
	交流スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・大沢野地域にゆかりのあるノーベル賞受賞者の功績を紹介するとともに、科学の面白さを体験できるコーナーを設置します。 ・学習スペースを確保し、親子で気軽に楽しく科学と触れ合い親しめる空間を整備します。 ・ホワイエとの連続性を意識した、開かれた空間とします。 	45 m ²
	小 計		

文化機能 (図書館)	開架室	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからお年寄りまでの幅広い世代の方々が気軽に利用できる空間とします。 ・レイアウトの工夫等により、開放的な空間を演出します。 ・保健センターとの連携等を促進するため、読み聞かせ等を行うスペースの設置を検討します。 ・開架資料は 40,000 冊（うち児童書 15,000 冊）程度とします。 ・地域を知り、誇りを持った人材を育成するため、歴史的・文化的な地域資源に関する資料を配置します。 ・図書館のエントランス付近に 24 時間返却可能なブックポストを設置します。 ・入退場ゲートなど、盗難防止のための措置を講じます。 	450 m ²
	書庫	<ul style="list-style-type: none"> ・閉架書庫は、可動式書棚により 30,000 冊程度の収納を可能なものとします。 ・搬入搬出及び管理が行いやすい場所に、適切な規模を確保します。 	100 m ²
	事務室	<ul style="list-style-type: none"> ・作業効率が良く、職員数にあった適正規模のスペースを確保します。 	50 m ²
	小 計		600 m ²
共用部	キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口カウンター付近に乳幼児向けの絵本やおもちゃを備え、安全性にも配慮したキッズスペースを確保します。 	20 m ²
	エントランス・ホワイエ・待合ロビー・トイレ・授乳室・廊下・階段・エレベーター・機械室等	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく開放的なエントランスとします。 ・多様な利用者を想定したユニバーサルデザインによる施設とします。 ・施設利用者の安全性を考慮し、十分な滞留空間を確保するとともに、待合スペースには寛ぐことができるよう椅子等を適宜設置します。 ・男女別トイレや多目的トイレは、利用しやすい配置とし、利用者がよりリラックスできる空間とするため、施設や設備の充実を図ります。 ・おむつ交換台などの必要な設備を備えた授乳室を確保します。 	855 m ²
	小 計		875 m ²
合 計		3,260 m ²	

図表 11 複合施設の利用イメージ

<p>間仕切りのできる大空間を確保することで、様々な用途に利用できる。</p>	<p>オープンスペースにキッチンスペースを設けることで、イベント等でも利用できる。</p>
<p>図書館の活用イメージ（左：岩手県立図書館、右：沖縄県立図書館）</p>	

図表 12 活用する既存施設における必要諸室と留意事項、想定面積

	必要諸室名	留意事項	想定面積 (m ²)
行政機能	執務室	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な打合せや作業スペース、事務機器スペース、収納等を適宜確保します。 ・IT化の進展や組織改正、職員数の増減等に伴うレイアウト変更にも柔軟に対応できるよう配慮します。 	730 m ²
	会議室等	<ul style="list-style-type: none"> ・公用施設として、各種会議や打合せなど、利用人数や用途に柔軟に対応できる会議室を確保します。 ・倉庫や書庫は既存の備品や書類の保管に加え、将来的な総量を想定した面積を確保します。 ・職員数や男女比の変化に柔軟に対応できるよう、男女の更衣室は移動式の間仕切り壁とします。 	455 m ²
	小 計		1,185 m ²
その他（改修しない部分）			約 3,300 m ²
合 計			約 4,500 m ²

(3) 配置計画

複合施設については、現在の行政サービスセンター等の機能を仮移転させることなく整備が可能であることや、既存施設（大沢野生涯学習センター）との一体的な活用を図ることなどを踏まえ、大沢野文化会館解体後の敷地に配置することとします。

また、民間事業者からの提案による民間収益施設は、現在の大沢野行政サービスセンター敷地等に配置します。

なお、施設配置に当たっては、以下の考え方を基本とします。

1) 敷地の有効利用

駐車場や動線、緑地等を適切に配置することで、貴重な敷地の有効活用を目指します。

2) 良好なアクセスの確保

大半の利用者は国道 41 号からアプローチしてくることを念頭に、できるだけ建物内にアクセスしやすい動線を確保します。

3) 安全性の確保

敷地内は歩行者・自転車・自動車の動線が交差しない「歩車分離」とし、安全な動線とします。

図表 13 配置イメージ



(4) 平面計画

以下の基本的な考え方にに基づき、複合施設及び活用する既存施設の平面計画を検討します。

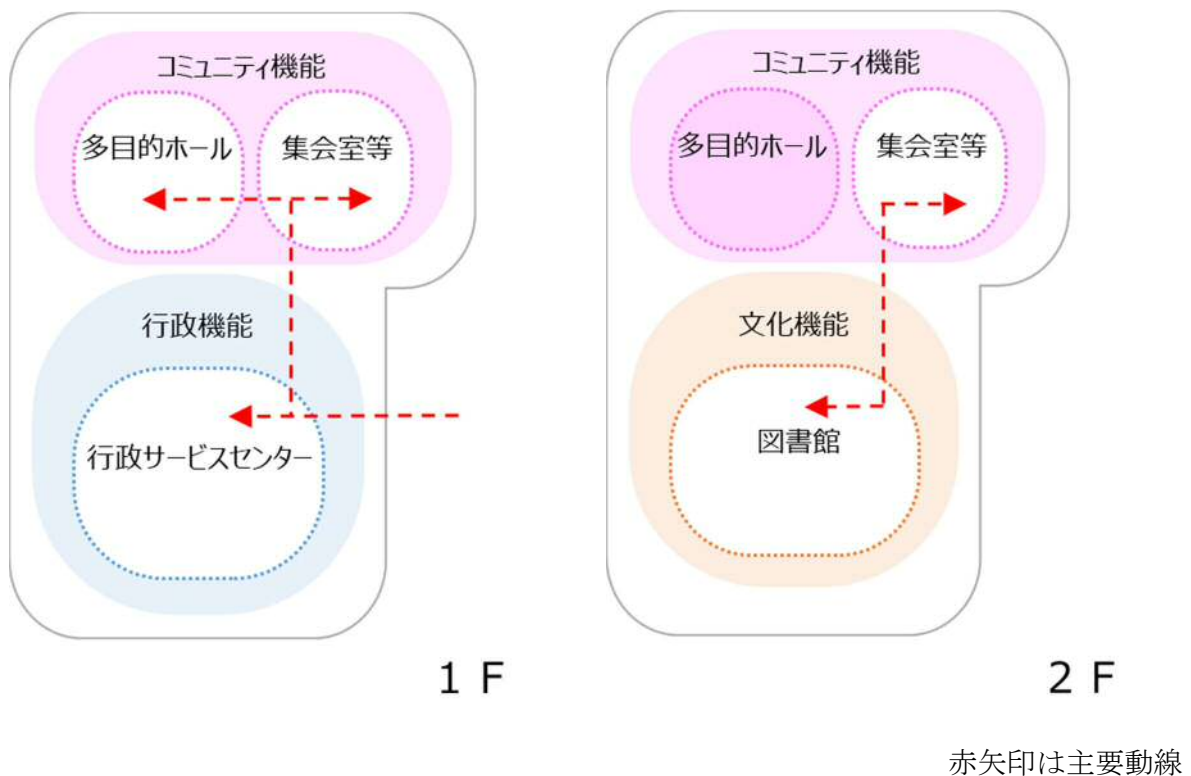
1) わかりやすく管理しやすいゾーニング

利用者にとってわかりやすく、かつ利用しやすい諸室配置とします。また、施設機能ごとに利用時間や利用形態が異なるため、それぞれの空間を明確に区分し、動線も必要時以外は重ならないよう配慮します。

2) 執務空間の充実とゆとりの確保

執務のしやすい機能配置と、利用者の待合いやカウンター配置など必要なスペースを確保します。

図表 14 複合施設の機能配置イメージ



(5) 構造計画

複合施設の構造種別は、経済性、工期の短さ、一定の耐震性能、柱のない大規模空間の確保の容易性等から、適切な構造種別を選択します。

(6) 設備計画

複合施設の設備は、安全で快適な空気・衛生環境等を維持できるものとし、同時に省エネルギーや環境負荷の低減に配慮した維持管理の容易な方式とし、ランニングコストの低減を図ります。

(7) 管理・運営計画

複合施設に導入される機能（部署等）は、それぞれ開庁日（開館日）や開庁時間（開館時間）が異なることに加え、個人情報の取扱い等があることから、これらに配慮した管理形態を検討します。また、複合施設及び活用する既存施設の各機能は、これまで通り直営による運営を基本とします。

なお、複合施設の管理・運営については、以下の基本的な考え方をもとに検討します。

<複合施設の管理・運営の基本的な考え方>

- ・ 行政サービスセンター、地域交流センター、図書館のそれぞれの機能だけでなく、それぞれの機能が複合していることを生かし、一体的な管理・運営を目指し、利用者の利便性の向上を図ります。
- ・ 誰もが利用しやすい施設の管理・運営を目指し、多世代の利用を促進します。
- ・ 様々な用途で使用可能なスペースを用意するだけでなく、利用方法など多様なニーズにも柔軟に対応します。

図表 15 管理・運営形態（想定）

（複合施設）

機能	維持管理	運営
行政サービスセンター	民間	直営
地域交流センター		
図書館		

（活用する既存施設）

機能	維持管理	運営
行政サービスセンター	民間又は直営	直営

（民間収益施設）

機能	維持管理	運営
地元産品の物販や飲食など、地域内外の方々を集客できる事業等	民間 （独立採算）	民間 （独立採算）

5. 事業計画

(1) 事業スキーム

本事業では、財政負担の軽減や平準化を図るだけでなく、民間事業者のノウハウを生かし、利用者満足度の向上を図るため、PPP手法の導入を検討します。

1) 事業方式

① 想定される事業方式

【複合施設】

・ 従来方式

従来方式では、市の自己資金により施設を整備します。設計、建設、維持管理・運営の独立性が高いため、大きなコスト削減効果や財政負担の平準化は期待できません。

施設の設計、建設、維持管理・運営は市が自ら行うことから、他の方式に比べて発注手続き等は簡素化されますが、分離発注となるため、民間ノウハウの導入余地は限定的です。

・ PFI-BT0 (Build Transfer Operate) 方式

PFI (BT0) 方式は、民間事業者が施設を建設し、施設完成後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方式です。

一括発注、長期分割払いとなるため、コスト削減効果や財政負担の平準化が期待できる一方、PFI法に基づく手続きが必要となるため手間がかかります。

本事業においては、市の直営による運営を基本としていますが、民間事業者により設計、建設、維持管理を一体的に実施できることから、より柔軟なレイアウトや維持管理ができる新しい形の施設となる可能性があります。

【活用する既存施設（改修）】

・ 従来方式

従来方式では、市の自己資金により施設を整備します。設計、建設、維持管理・運営の独立性が高いため、大きなコスト削減効果や財政負担の平準化は期待できません。

施設の設計、建設、維持管理・運営は市が自ら行うことから、他の方式に比べて発注手続き等は簡素化されますが、分離発注となるため、民間ノウハウの導入余地は限定的です。

・ PFI-R0 (Rehabilitate Operate) 方式

PFI (R0) 方式は、民間事業者が施設を改修した後、施設の維持管理・運営を行う方式です。

民間ノウハウの導入余地がありますが、公募段階で既存施設の状態を詳細に把握する必要があることから、事前の調査に費用や時間がかかるほか、把握できなかった瑕疵（見えざる瑕疵）に対する官民のリスク分担のあり方などが課題となります。

【民間収益施設（余剰地活用事業）】

事業用地を売却する方式又は民間事業者が本市と定期借地権等を締結した上で、民間事業者の自由提案に基づき、自らの責任と費用負担により、設計、建設及び維持管理・運営を行う方式を想定しています。

② 市場調査（サウンディング調査）

本事業において想定される事業方式等に対する民間事業者の主な意見は次のとおりです。

- ・ 複合施設の PFI-BTO 方式について、否定的な意見は見られませんでした。
- ・ PFI-R0 方式については、次のような理由から一部懸念も示されました。
 - ア) 元施工企業と組んだコンソーシアムが有利になるため、組手次第の競争になりやすい。
 - イ) 施設のレイアウト変更が難しく、レイアウト・運営による行政施設の工夫がしにくい。
 - ウ) 将来の維持管理計画を立てにくい。
 - エ) 国道 41 号から一番目立つ位置にあるため、改修して残すとリーディングプロジェクトとしての新しさを感じにくい。
- ・ 事業期間については、概ね 15 年程度が望ましいとの意見が得られました。
- ・ 余剰地等を活用した民間収益施設の整備（余剰地活用事業）については、既に周辺にロードサイド店が多く立地していることなどから、否定的な意見が多く見られたものの、国道 41 号沿いであれば検討の余地はあるとの意見もありました。

また、余剰地活用事業の事業期間については、複合施設と同等もしくは短期間が望ましいとの意見が多くありました。

①及び②を踏まえ、導入可能な民間活力の手法について比較検討した結果、複合施設の整備に最適な手法は PFI-BTO 方式と考えられます。一方、活用する既存施設の改修については、従来方式が望ましいと考えられますが、PFI 手法による複合施設との一体的な実施についても、引き続き検討します。

図表 16 定性的評価

検討の視点	複合施設（新設）：従来方式 既存施設（改修）：従来方式	複合施設（新設）：PFI（BTO）方式 既存施設（改修）：従来方式	複合施設（新設）：PFI（BTO）方式 既存施設（改修）：PFI（RO）方式
コスト面			
総事業費	設計、建設、維持管理・運営が独立して実施されるため、大きなコスト削減効果は期待できない。	複合施設（新設）は、一括発注となるため、コスト削減効果が期待される。	一括発注となるため、コスト削減効果が期待される。
市の財政負担	複合施設（新規）、既存施設（改修）ともに、初期投資において市による資金調達が必要となる。	複合施設（新設）は、長期分割払いとなるため、財政平準化が期待される。 既存施設（改修）は、初期投資において市による資金調達が必要となる。	複合施設（新設）、既存施設（改修）ともに、長期分割払いとなるため、財政平準化が期待される。
評価	○	◎	◎
サービス面			
利用者利便性	運営は直営のため現状維持。	運営は直営のため現状維持。	運営は直営のため現状維持。
評価	○	○	○
民間意向			
民間の評価（手続き、リスク分担・収益性の確保）	複合施設（新設）、既存施設（改修）共に、通常の請負業務と同様。	複合施設（新設）は、設計、建設、維持管理を通じて、一体的に民間ノウハウが導入でき、機能性や快適性の高い施設整備が可能である。 既存施設（改修）は、通常の請負業務と同様である。	複合施設（新設）は、設計、建設、維持管理を通じて、一体的に民間ノウハウが導入でき、機能性や快適性の高い施設整備が可能である。 既存施設（改修）は、改修工事の見えざる瑕疵に対するリスク分担のあり方に課題がある。
評価	○	◎	△
総合評価	○	◎	○

◎：優れている、○：現状維持、△：一長一短がある

2) 事業期間

期間については、複合施設は概ね15年程度、民間事業者の提案による民間収益施設（余剰地活用事業）はそれと同等もしくは短期間と想定しています。

3) 業務範囲

本事業における業務範囲について、想定する官民の役割分担を示します。

図表 17 民間事業者との業務役割分担（想定）

業務項目		業務分担	
		民間	市
1. 複合施設			
設計業務	既存施設（大沢野生涯学習センター除く）の解体設計	○	
	基本設計	○	
	実施設計	○	
解体業務	既存施設（大沢野生涯学習センター除く）の解体工事	○	
建設業務	敷地造成	○	
	建設工事	○	
	外構工事	○	
	什器備品等設置	○	
	引越し	○	△
工事監理業務	工事監理	○	
維持管理業務	建築物保守管理	○	
	建築設備保守管理	○	
	清掃・警備	○	
	植栽維持管理	○	
運營業務	行政サービスセンター運営		○
	地域交流センター運営		○
	図書館運営		○
2. 活用する既存施設			
設計業務	既存施設（大沢野生涯学習センター）の改修設計	引き続き 検討	
改修業務	既存施設（大沢野生涯学習センター）の改修工事		
維持管理業務	建築物保守管理等		
運營業務	行政サービスセンター運営		○
3. 民間収益施設（余剰地活用事業）			
設計・工事・維持管理・運營業務等		○	

○：主担当 △：支援

4) 事業形態

本事業（余剰地活用事業を除く）はサービス購入型とします。

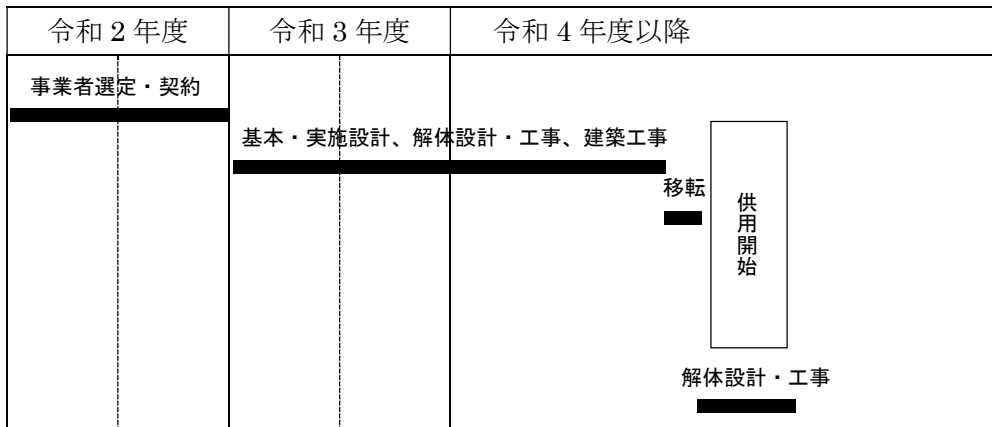
5) その他

事業者の公募に当たっては、現在、同じくリーディングプロジェクトとして、事業スキーム等の検討を進めている「大山地域公共施設複合化事業」との一体的な募集についても、そのメリットやデメリット等を踏まえながら、引き続きそのあり方を検討します。

(2) 事業スケジュール

本事業におけるスケジュールは、次のとおり想定しています。

図表 18 本事業におけるスケジュール



(3) 概算事業費

本事業における施設整備等の概算事業費は約 24 億円（税込）と想定しています。主な費用項目は以下のとおりです。なお、事業費はあくまで現時点の概算であり、今後の検討により増減する場合があります。

<主な費用項目>

設計・工事監理費、工事費、解体撤去費、引越費

（設備・備品費のほか、活用する既存施設の改修費は含んでいません。）

6. 今後の検討に向けて

これまで、大沢野地域におけるリーディングプロジェクトの基本的な方針や施設整備に向けた基本的な考え方などについて整理しました。

今後は、これらの方針や考え方に基づき、地域の新たなシンボルとして、また、地域活性化に向けた拠点施設として、より多くの皆様に長きにわたり親しまれる施設となるよう引き続き検討を進めます。

なお、検討に当たっては、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するとともに、将来世代に大きな負担を残さないよう、財政の健全性にも配慮しつつ、PPP手法の導入等により、民間事業者の新たな発想や工夫を最大限に取り入れながら、サービスレベルの向上が図られるよう努めていきます。

7. 参考（ワークショップ等の概要）


本計画の前提となる「大沢野地域公共施設複合化事業[リーディングプロジェクト]基本構想」の策定に当たっては、より地域の実情を反映したものとなるよう、以下のコミュニケーション手段を活用し、地域住民や施設利用者の方々から幅広い意見をいただきました。

図表 19 コミュニケーション手段の概要


コミュニケーション手段	概要
ワークショップ	大沢野地域にお住まいの方にご参加いただき、グループに分かれて、まちづくりと公共施設の課題やその解決策、具体的なプランなどについて、自由に議論をいただきました。 回数を重ね、議論を深めていただくため、同じ参加者に継続してご参加いただき、議論の取りまとめを行いました。
オープンハウス (パネル展示型説明会)	地域住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見やそれらを反映したリーディングプロジェクトのプランなどの内容を広報しました。
ニューズレター	ワークショップで挙げられた意見やそれらを反映したリーディングプロジェクトのプランなどをお知らせするチラシ（ニューズレター）を地域内の各世帯に配布するとともに、ワークショップで検討されている内容についての意見を募集しました。

① ワークショップ



<第1回>

開催日時	平成 30 年 7 月 29 日（日）
参加者数	25 名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進め方の確認 ・ 検討に当たっての前提条件の理解 ・ 地域別実行計画、リーディングプロジェクトの内容理解 ・ 公共施設を取り巻く課題の共有
主な意見等	<p>1. 計画検討やワークショップの進め方について</p> <p>1) 地域別実行計画の考え方や検討の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算の縮小を前提とした議論ではなく、将来更新費用の推計も含めて進めてほしい。中心部だけでなく周辺住民の生活も念頭においてほしい。 <p>2) ワークショップの進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後施設を使うことになる若い世代、子育て世代の意見など広い世代に聞き、わかりやすい説明で議論のテーマを絞り明確にまとめてほしい。 <p>2. 地区のまちづくりや公共施設について</p> <p>1) まちづくりの現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少といっても状況はまちまちのため、中心部の利便性を高めた集約化ではなく、中山間地も含めてバス路線などのアクセスも考慮し地域の生活に根差した再編をしてほしい。 <p>2) 公共施設の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者のニーズをきちんと調査し、再編を考えてほしい。また交通アクセスと公共施設の再編はセットで検討してほしい。 <p>3. リーディングプロジェクトとなる複合施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政サービスセンターは耐震改修して使い続け、文化会館の機能をすべて残した複合施設にしてほしい。また災害対策機能や子育て支援機能、集会室、調理室、体育施設などの機能があるとよい。 ・ 文化会館のホールに代わるスペースが必要。スーパーやコンビニなどの民間施設を誘致し、施設の一部は民間運営とするなど工夫が必要。 ・ 複合施設は地域のシンボルなので、駐車場、待ち合わせスペース、バス路線などのアクセス面や、建物のデザイン、名称に「大沢野」の名前を残すなど配慮してほしい。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

<第2回>

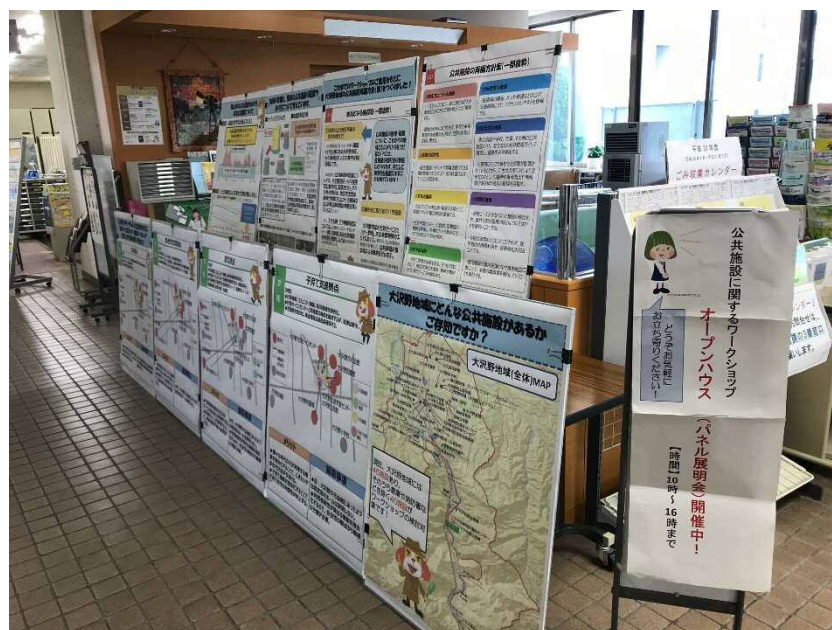
開催日時	平成 30 年 8 月 25 日 (土)
参加者数	21 名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における公共施設を取り巻く課題の共有 ・ 課題解決の方向性、アイデア出し
主な意見等	<p>1. 用途別方針について</p> <p>(1) 市民文化系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大沢野地域は南北に長いので公民館が廃止されるとアクセスが課題となる。ホールを整備しても遠方の住民のアクセスを確保する必要がある。 <p>(2) 社会教育系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習センターは現状不便なので手軽に利用できる工夫が必要。図書館は民営化したり減らしたりしてほしくない。 <p>(3) スポーツ・レクリエーション系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武道場や入浴機能を複合させ、夜間利用をしてはどうか。ウィンディは利用されており、介護予防の観点からも維持してほしい。 <p>(4) 学校教育施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は重要なので存続してほしい。大久保小は建替えしてほしい。 <p>(5) 子育て支援施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校に隣接した立地にし、空き教室活用などで子どもの居場所を増やしてほしい。 <p>(6) 保健・福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者向け施設は大久保地区でも必要。車以外のアクセス方法を確保してほしい。高齢者以外にも門戸を開いて多世代交流ができるよう活性化すべき。 <p>(7) 行政系施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平日夜や土日にも手続きできるようにし、部署を減らしてほしい。 <p>2. リーディングプロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホール、武道場、生涯学習、子育て支援、防災機能などを複合し、地区外からも人が集まり、地域の活性化・利便性が向上する施設にする。 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーディングプロジェクトの目指す時期や予算など明確にほしい。
	

<第4回>

開催日時	平成30年12月22日（日）
参加者数	24名
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・案の絞り込み ・修正用途別方針案の妥当性の確認 ・再編を進める上での配慮事項の確認
主な意見等	<p>1. 公共施設の再編方針案について</p> <p>(1) 拠点となる施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の意見が反映され、下タ北部、下タ南部地区の細入地域の公共施設利用についての文言が変更されたのはよかった。 <p>2. リーディングプロジェクト案について</p> <p>(1) リーディングプロジェクト案全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大沢野地区だけ特別扱い感がある。またすべての施設を同時に建替えた方がよい。空いたスペースは駐車場に転化し、出身のノーベル賞受賞者に関する場を作り広く知ってもらいと魅力づくりにつながる。 <p>(2) 地域にとって好ましいと思う案</p> <p>A案・A'案…大きなホールを作るならば稼働率・集客率を高くしてほしい。固定席ではない多目的スペース的なホールは必要。現在の生涯学習・図書館機能のレベルは保ってほしい。</p> <p>B案・B'案…「多世代交流拠点」をコンセプトに必要な施設が網羅され、子どもが文化に触れる機会が多く生まれる点でもよい。図書館機能は現状維持で、子育て相談窓口もあると便利だ。</p> <p>D案…図書館と児童館が一緒になれば子ども同士・大人との交流が活発化する。留意事項に「動線の分離」とあるが、複合施設利用者が児童館にいる子どもの様子を見られることは交流につながるため、できなくなるなら動線は分離しない方がよい。さらに武道場機能が複合されるとよい。</p> <p>(3) 評価表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較評価の基準になるベース案が何を指しているのかわかりにくい。施設運営費は民間委託などによる経費削減が見込めるのではないか。また地域内の活性化に関する評価も加えてほしい。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>

② オープンハウス

日時	会場
平成 30 年 11 月 26 日 (月)	大沢野健康福祉センター「ウィンディ」
平成 30 年 11 月 30 日 (金)	大沢野行政サービスセンター



③ ニュースレター ＜第1号＞

大沢野ニュースレター第1号
発行：富山市 平成30年8月20日

7月29日(日)に開催しました第1回ワークショップについてお知らせします！

大沢野地域 まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ

本市では、人口減少と高齢化社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。こうしたことから、限られた財源のなかで、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様にも様々な思いや意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、大沢野地域・大山地の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、今後の「地域別実行計画」「リーディングプロジェクト」（次ページ参照）の策定に反映させるとともに、地域の皆様に住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

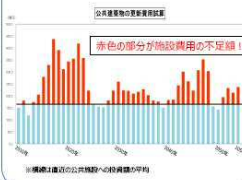
こちらの「ニュースレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

富山市における公共施設の現状と課題

公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別原価率を見ると、全体の40%がすでに築後30年以上経過しています。この築30年を過ぎれば建物も老朽化、大規模修繕や建て替えが必要となり、多額の費用が必要になると想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均約8.5億円が不足すると見込まれます。



人口減少

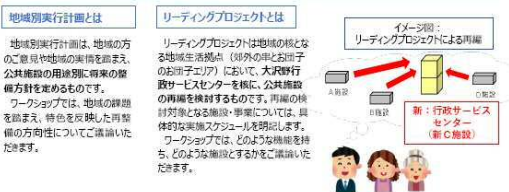
富山市の人口は、平成72年(2060年)には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、大沢野地域では、平成72年(2060年)には、現在の人口が約4割減少し、12,240人になると推計されています。

人口減少、そして少子高齢化の進行により、市町村などが負担し、公共施設にかけられる費用はますます減少する可能性があります。



地域別実行計画・リーディングプロジェクトの策定



ワークショップの流れ(予定)

富山市	ステップ1 進め方の確認 最終目標の策定 課題の抽出	ステップ2 地域の課題と 課題解決の方向性	ステップ3 再配置案の提示 長所・短所 (比較整理)	ステップ4 再配置案の選定
大沢野地域	第1回ワークショップ 7月29日	第2回ワークショップ 8月26日	第3回ワークショップ 9月23日	第4回ワークショップ 10月21日
大沢野地域	●進め方の確認 ●検討にあたっての前提条件の整理 ●地域別実行計画、リーディングプロジェクトの内容整理 ●意見が出ている公共施設を取りまく課題	●地域を取りまく公共施設の課題 ●課題解決の方向性、アイデア出し	●地域にある公共施設 ●現在の公共施設の再配置案の提示(市が作成した案がWSなどの意見を踏まえて作成されているか)	●案の絞り込み ●修正再配置案の提示 ●再編を進める上での配慮事項
大沢野地域	ニュースレター	ニュースレター	ニュースレター	ニュースレター
大沢野地域	オープンハウス			

大沢野地域 第1回ワークショップが開催されました

7月29日(日)、大沢野生涯学習センターにて、「大沢野地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催されました。大沢野地域にお住まいの25名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

今回のワークショップでは、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、大沢野地域の公共施設の現状と今後について課題と併せていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。

第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

- ◆ 計画検討やワークショップの進め方について
 - 地域別実行計画の考え方や検討の進め方
 - 市の中心部ばかりに投資されている。周辺地域が置き去りにされているのではないかと懸念されている。
 - 周辺地域が平野部から、市の中心部に移り住む人が増え、主眼の中心部を市が支えている。周辺地域を支援する必要がある。
 - 平野部の市街地が伸び、現行サービスセンターが対応できなくなる。大沢野の住居に引っ越す人が増える。周辺地域は地域別実行計画で対応し、市街地(旧市街)へ回帰させてほしいと声がかかる可能性がある。
 - 市街地エリアの地域、市街地が離れた地域、対象施設が多い中で、品が揃っていない地域もある。
 - 市街地の小規模店舗は、既存の施設を建てた場所だけでなく、施設の新築や再建、設備補修による長寿命化を行った場合のメンテナンスもしてほしい。
 - ワークショップの進め方
 - 以前に出た会合では、いろいろ出した要望が受け入れられず残念な思いをした。今回のワークショップも同じような思いが心配。
 - 既に方向性は決まっていますが、形式的に意見を聞く(アパイヤ)の場ではないかと懸念している。
 - 自分たちもできる限り、このワークショップの場で意見を伝えていくので、それらの意見を踏まえて再考してほしい。
- ◆ 公共施設の現状と課題
 - 生活圏・アクセス
 - 公共施設が充実していても行けなくて困っている。交通アクセスが公共施設の再編に反映してほしい。
 - シルバークロス利用は利用範囲が大沢野地域に限定されている。回数が増えれば、気軽に利用できる。
 - 下町地区の住居に隣接してバス停がある人が多く、生活圏を確保するための検討が必要である。
 - 旧路線の周辺に多くの住居があるが、公共交通がないので、国道や市道までアクセスが不便になっている。
 - バスの車庫に空きスペースがある。新車庫まで階段を使わないで行けるように検討してほしい。
 - 今後の自動車の技術が進歩して、新たな技術を使って駅周辺のアクセスを改善してほしい。
 - 市街地の活性化
 - 大沢野には伝統的な文化がなく、民間でもない。現在の駅以外でも自分たちが楽しめる催しが重要である。
 - 防災
 - 命を守る上では重要である。中心部に近い大規模な施設を整備する。備蓄が足りない場合は、周辺に分散して行う施設がない状態になる恐れがある。
 - 子育て
 - 子育て世代が育ちやすい環境である。富山市本庁舎に隣接する可能性もある。大沢野地域でも積極的に活用してほしい。
 - 大沢野地域で子育て世代の増加を想定している。整備する必要がある。本庁舎が災害対策本部として機能しているように、子育て世代が安心して暮らすことができることを意識してほしい。
 - 文化施設・図書館
 - 成人式は文化会館で行っていたが廃止されて使えなくなった。500人規模の人が集まれる場所が必要。
 - 成人式の開催は今後検討して欲しい。将来的な需要を踏まえて、ホールの規模を考えると良い。
 - 文化会館のホールの代わりとなる施設が必要と思う。生涯学習センターや公民センターのホールでは対応しきれない人数に開催するには必要である。
 - 多目的に使えようとするホールが良い。
 - 生涯学習センターの部屋で成人式や祝賀会等を行っているが、300席ほどの椅子を用意するのは大変である。
 - 大沢野地域にホールをもう一つとしたい。大沢野地域にホールをもう一つとしたい。子育て世代が育ちやすいホールをもう一つとしたい。
 - 多機能なホールにした方がよいと思う。
 - 文化会館が廃止されたが今後どうなるのか、方針を示してほしい。
 - 子どもが居る場所に行く。自転車で行くことができる。親が一掃にバスで行く状態である。学校に比べて使いやすい場所が必要ではないかと思う。
- ◆ まちづくりの現状と課題
 - 人口減少
 - 富山小学校の児童数の減少は数年前から続いている。地域の人口が減少しているのを懸念している。
 - 下町は大沢野でも人口が減少している。人口が減少し、施設もサービスも廃止されて不便になる。
 - 心を豊かにする施設が必要。地域で子どもを育てたい場所をもう一つにしたい。
 - 中山間地区に人が集まることで市街地が広がる。市街地が広がることで、中山間地区の住民もサービスを受けやすくなる。

リーディングプロジェクトについて

- 複合施設機能
 - 複合施設の中にホールを入れて文化拠点にしたい。
 - 文化会館にある施設は縮小してよいのを入れてほしい。
 - 飲食店で30人規模の部屋がほしい。
 - 生涯学習センターの体育施設を有効活用してほしい。
 - 市民センターの機能を強化してほしい。富山市の中心部には市民センターがあるが、大沢野地域にはない。
 - 大沢野地域に子育て世代が育ち、子ども向けの催しのイベントなどが必要。
 - 休みの日に子どもが遊べる。高齢者ボランティアの方から遊べる施設を確保してほしい。
 - 文化会館が活用でき、文化会館に付随して子育て支援に関するサービスがほしい。今は指定された場所に行かなくてはならず、下町の住居には大沢野地域の子育て支援センター機能の確保が難しい。
 - 子どもを育て、子育ての観点から、複合施設にも施設メニューは設置してほしい。
- その他
 - 今年6月に行政サービスセンターと文化会館を統合した施設を確保してほしい。新しい施設を出している。そうすれば時間を有効活用してほしい。
 - 行政サービスセンターを確保することが前提になっているが、そのための理由を説明してほしい。
 - 働き方改革を推進して、子育て支援施設は必要だ。
 - 文化会館にある施設がなくなると、科展教室がなくなる。施設を確保してほしい。
 - 地域の活用も考えてほしい。利用料が高い。団体登録するの前提で活用してほしい。
 - 施設が活用できない場合は、その目的や中身のニーズに合わせて別の施設を確保してほしい。
 - 施設が活用できない場合は、その目的や中身のニーズに合わせて別の施設を確保してほしい。
 - 施設が活用できない場合は、その目的や中身のニーズに合わせて別の施設を確保してほしい。

ご意見募集

ワークショップに参加されるだけでなく、多くの大沢野地域の皆様のご意見を今後の計画に反映させたいと考えています。ご意見を募集します。

◆ ワークショップで検討されている内容について
◆ 大沢野地域のまちづくりと公共施設について

下の「お問い合わせ先」から、メール・ファクス・郵便・特約窓口、下記電話番号にお届けください。もしご意見がなくても、住所、年齢、性別、連絡先は記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理課行政推進課
公共施設マネジメント推進班
電話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail: gyusei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPにて紹介しています。
<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakuankinbu/gyouseikanika/sougoukanrikeikaku/sougoukanrikeikaku.html>

<第2号>

大沢野地域 まちづくりと公共施設の 「これから」を考えるワークショップ

大沢野ニュースレター第2号
発行：富山市 平成30年9月20日

**8月25日（土）に
開催しました第2回
ワークショップについて
お知らせします！**

富山市では、今年度、大沢野地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催しています。8月25日（土）に第2回ワークショップを開催しましたので、その内容をお知らせします。また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップにて紹介し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

富山市は、このワークショップをはじめ、広く地域の皆様からいただいたご意見を反映させ、大沢野地域における公共施設の用途別に将来の整備方針を定める「地域別実行計画」と、大沢野行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討する「リーディングプロジェクト」を策定します。策定までは、下記のように段階的に検討を進めます。第2回ワークショップでは、「大沢野地域の課題」と「課題を解決していくためのアイデア」について話し合いました。

進め方
最終目標の設定
課題の抽出

8/25開催
第2回ワークショップ
大沢野地域の課題や課題解決のためのアイデアについて意見交換を行います。

地域の課題と課題解決の方向

10/28開催予定
第3回ワークショップ
公共施設の用途別方針案やリーディングプロジェクトによる再配置案について検討します。

再配置案の提示
長所・短所

12/22開催予定
第4回ワークショップ
用途別方針案や再配置案を評価し、絞り込みを行います。

地域別実行計画、リーディングプロジェクトの策定

ご意見を8つの視点にまとめ、各視点を基に検討しました。

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップで出されたご意見を、8つの視点に整理するとともに公共施設の用途別の課題やリーディングプロジェクトについてのご意見も取り入れ、他に追加すべき視点や用途別の課題はないか、それぞれの課題を解決するためにはどうすればよいか、リーディングプロジェクトではどのような施設を目指すべきか等について意見を申し合いました。

以下は、8つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップのご意見等からの抜粋です。

<p>① 地域の活性化を図る（拠点づくり、魅力づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域外から人が来る文化拠点になるといい ○ 多世代交流が出来る施設をつくる <p>② アクセシビリティを確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各地区からのアクセシビリティを確保するべき（公共交通、駐車場） <p>③ 子育て環境を充実させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもと待ち合わせできるスペースがあるとい ○ 子育て支援機能の必要性 <p>④ 学校教育環境を適正化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通学時の安全性や利便性の確保 	<p>⑤ 安全性を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害に強い立地を活かす ○ 防災メモリアル施設の検討 <p>⑥ 将来負担を軽減する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コスト面を考慮して整備を行う必要性 <p>⑦ 必要機能を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文化会館の機能 ○ 集食室 ○ 調理室 ○ 民間機能との複合 <p>⑧ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複合化により利用が集中しすぎないようにする ○ 地域のシンボルにする
--	--

第2回ワークショップのご意見（抜粋）

市民風化基地

- ・ 集食施設がなくなってしまうと、地域の行事や集会的な場がなくなってしまう。さらに高齢化が進むのではないか。
- ・ 大沢野地域は南北に広いので、地区の集食施設がなくなった場合、他地区の公民館まで行くのも難しい。
- ・ 地域の介護の拠点であるのに、高齢者が遠くまで行くのは難しい。
- ・ 山前では増やすべき危険性がある中、公民館がなくなると、多世代交流がなくなってしまうので全ての公民館を維持してほしい。
- ・ 公民館を廃止しても、遊樂所機能は地区に残してほしい。
- ・ 集食施設は、代替施設があれば、施設を再編して財政負担を減らすほうが子どもの将来のためになる。
- ・ 空き室や学校の未利用教室を活用して集食機能を確保するのでも可。ただし、学校に人の出入りが減ることはよくない。
- ・ ホールを整備するのであれば、遠方の住民のアクセスを確保するため、コミュニティバスなどを導入してほしい。
- ・ ホールについては、階別の施設で代替できない場合は確保する必要がある。500人規模の多目的に利用できるホールが必要だ。

社会教育系施設

- ・ 図書館は子どもたちの利用を考えると、廃止して富山市中心部まで行くのではなく、地域内に確保。
- ・ 全国では図書館を廃止している事例もあるが、シェアリング機能が低下したり、地域の歴史を継承するという役割が軽視されがちなため廃止はしない方がいい。
- ・ 社会教育施設には、料理教室が催される調理室があると若い世代も利用するのではいい。
- ・ インターネットを活用した利用申請など手軽に利用できる工夫が必要だ。

スポーツ・レクリエーション系施設

- ・ スポーツ施設には、芝道場の代用品となるスペースが必要だ。芝道場は規模は小さくても周辺の集客の場がある場所が必要だ。
- ・ 民間利用が可能な遊樂場の見直しなど、運営上の工夫が必要だ。

健康福祉センター（ワンデイ）

- ・ 健康福祉センター（ワンデイ）は、遠方から訪れる高齢者も、健康づくりの観点から集客を確保する上で、維持してほしい。
- ・ 徳富山森林公園は観光資源であり続けてほしいが、現状では十分に活用されていない。

学校教育施設

- ・ 地域にとって子どもの存在は大切であり、学校があることが重要なので、大沢野町内に存続してほしい。
- ・ 人口が増加している地区で学校が老朽化しているが、対策として改修では不十分なので建て替えしてほしい。

子育て支援施設

- ・ 幼稚園や保育園を併設する場合、小学校に隣接していると送迎の面で便利だ。
- ・ 思前や学童保育など子どもの居場所が不足しているので、学童教室などを活用して居場所づくりをしてほしい。

保健・福祉施設

- ・ 高齢者や障がい者も利用者が少ない施設だが、高齢者以外にも利用を促して多世代交流ができるように。
- ・ 車を使えない高齢者が多くなっているため、高齢者福祉施設は車以外のアクセスの方法を確保するべきだ。

行政サービス施設

- ・ 現状の行政サービスセンターの規模は大きすぎる。コミュニティの多機能センターとして活用した申請などにより規模を縮小できる。

リーディングプロジェクトのコンセプト

- ・ 複合施設の機能を充実させて、地域外からも人が集まる、地域の活性化につながる施設にする。
- ・ 安心・安全な立地を活かして、地域の防災機能を強化し、防災拠点となる施設にする。
- ・ 地域の住民の生活を充実させる機能が備った施設にする。
- ・ 子育て支援機能を充実させて、ワンストップサービスが受けられる施設にする。

ご意見募集

ワークショップに参加された方だけでなく、多くの大沢野地域の皆様のご意見を今後の計画に反映させたいと考えています。ご意見を募集します。

- **ワークショップで検討されている内容について**
- **大沢野地域のまちづくりや公共施設について**

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理行政事務課
公共施設マネジメント推進課

電 076-443-2021
ファクス 076-443-2170
E-mail: gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。

<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakuanniru/gyoseikanri/sougouannieikaku/>
<http://sougouannieikaku.html>

皆様のご意見をお待ちしています！

37

<第3号>

大沢野ニューズレター第3号
発行：富山市 平成30年11月20日

10月28日（日）に開催しました第3回ワークショップについてお知らせします！

大沢野地域まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ

検討の進め方

富山市は、ワークショップをはじめ、広く地域の皆様からいただいた意見を反映させた、大沢野地域における公共施設の再編方針を定める「地域別実行計画」と、大沢野行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討する「リーディングプロジェクト」を決定します。第3回ワークショップでは、「公共施設の再編方針」と「リーディングプロジェクト」について話し合いました。

進め方：最終目標の設定・課題の抽出 → 地域の課題と課題解決の方策 → 再配置案の提示・短所 → 再配置案の選定 → 地域別実行計画、リーディングプロジェクトの策定

第3回ワークショップ 10/28開催
公共施設の再編方針案やリーディングプロジェクトについて再配置案について検討しました。

第4回ワークショップ 12/22開催予定
再編方針案や再配置案を評価し、絞り込みを行います。

オープンハウス（パネル展示型説明会）のご案内

これまでのワークショップでの議論をふまえて、オープンハウスを開催します！

- オープンハウスとは、ワークショップでの議論などについてパネルで展示して、市の担当者が内容を説明し、広く大沢野地域の皆様からご意見をいただくものです。

オープンハウスを開催しますので、お気軽にお立ち寄り下さい！メールなどのご意見もお待ちしております。

日時
11月26日（月）10時～16時
大沢野健康福祉センター（ウィンディ）

日時
11月30日（金）10時～16時
大沢野行政サービスセンター

ご意見募集

- ワークショップで検討されている内容について
- 大沢野地域のまちづくりや公共施設について

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファックス・郵便などにより、どうぞお気軽にお寄せ下さい。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先
富山市企画管理部行政政策課 公共施設マネジメント推進班
電話：076-443-2021
ファックス：076-443-2170
E-mail: gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報
富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。
http://www.city.toyama.toyama.jp/hakakannbu/gyouseikanika/sougoukanrikaiku/sougoukanrikaiku.html

リーディングプロジェクト（案）について

第3回ワークショップでは、第1・2回ワークショップで出された意見をもとに作成した4つの案について、追加すべきことや気になる点など、ご意見をいただきました。

A 文化拠点

- 行政機能・コミュニティ機能・文化機能を複合化。
- 行政サービスセンターと図書館は、機能を維持するが規模は縮小。集会所は集約し、スポーツもできる多目的スペースを確保。

主なご意見

- コンサートができるようなホールが必要かどうか。固定席のホールにすると、使い勝手が悪くなる。地域の音楽会などのイベントは、多目的スペースでもよいと思う。
- 武道館を複合化しない場合は、学校の武道場を開放して活用することが可能かと思う。

B 多世代交流拠点

- 行政機能、コミュニティ機能、文化機能を複合化。
- 行政サービスセンターと図書館は、機能を維持するが規模は縮小。集会所は集約し、スポーツもできる多目的スペースを確保。

主なご意見

- 多目的スペースを、文化的な活動もスポーツもできる場所にするので、利用団体が多く、予約が取りにくくなり、使えなくなってしまう問題か。
- 武道館を複合するのはよいが、量がなると柔道場がなくなる。児童館を複合し、量の多目的スペースをつくらせて、子ども達がくつろぐ場と柔道場ができるスペースにしてはどうか。

C 防災拠点

- 行政機能、コミュニティ機能、防災機能を複合化。
- 行政サービスセンターは、機能を維持するが規模は縮小。災害時にも利用できる多目的スペースを確保。

主なご意見

- 避難場所としては学校があり、グラウンドへハコプターが降りることもできるので、避難場所になる広場を新しくする必要を願います。
- 複合施設と生涯学習センターの建物が見えなくなっているため、隠すてほしい方が多い。

D 子育て支援拠点

- 行政機能、コミュニティ機能、文化機能、子育て支援機能を複合化。
- 行政サービスセンターと図書館は、機能を維持するが規模は縮小。児童館を複合化。集会所は最低限確保。

主なご意見

- 将来的に子どもは減っていくので、児童館を新しくしても、学校の空き教室を使うことで対応できると思う。
- 児童館は新しいのでまだ使えるだろう。新たなものをつくるのではなく、今あるものを活用する方がよい。
- 子育てに悩んでいる親が相談できるような相談所を設けてほしい。

全世代の主なご意見

- 生涯学習センターと図書館は、そのまま使うことを考えてはどうか。
- 椅子を運び、並べることは大変だ。固定席でなくてもよいが、引き出すタイプの椅子がよい。
- 子どもの数を考えると、今後は成人を行う場合も200人規模で足りる。大きなスペースの確保を考えると、飲食禁止などの制約をなるべくなくし、利用しやすいスペースにする方が重要だ。
- 多目的スペースに間仕切りを入れ、扉を開けて利用できるようにすると使い勝手が良いのではないか。
- 行政サービスセンターに防災拠点の機能を持たせることは、どの案にも必ず入れるべきではないか。

公共施設の再編方針（案）について

第3回ワークショップでは、第1・2回ワークショップで出された意見をもとに作成した公共施設の再編方針（案）について、追加すべきことや気になる点など、ご意見をいただきました。

(1) 拠点となる施設等（案）（抜粋）	主なご意見
① 地域の公共施設再編の基本的考え方 ・ 地域の北部と南部は、集中的に配出し、利便性、機能性を高める。 ・ その他の地区は、必要最低限の機能を残し、下北部、下南部地区は個人地域の公共施設の利用を優先して検討する。	・ 下々の北部と南部は個人の公共施設の利用を図るというのは、住民の意見を十分に聞いて進めたい。 ・ パラ（ラ）に投資するより、思いのこを1つづつためたため投資を集中した方がよい。アクセスが確保されていなければ問題ない。 ・ 大沢野地域だけでなく、周辺の範囲で考えたほうがよい。 ・ 最低限の機能とは、どこまで機能を削いでいるのか。
② 優先的に取り組むべき施設 ・ 行政サービスセンター、文化会館跡地のエリアで、老朽化した公共施設の建築を契機に複合化を行う。 ・ 文化拠点づくり、子育て機能の集中配置、多世代が集まることの出発場の確保、防災機能の確保等をコンセプトとする。	・ 4つのコンセプトには大事を要素が入っていると思う。 ・ 大沢野地区の人口は増えているので、複合施設は、現在の予定地よりも北部にあたりたいと思う。一方、南部に多い高齢者は、車の運転ができない人が多いので、高齢者のアクセスを考えると、現在の予定地がよいと思う。
(2) 公共施設の再編方針（案）（抜粋）	主なご意見
① 地域コミュニティの維持 ・ 一定の人口に応じて、集会所など、人の集まることのできる空間を地区ごとに確保する。	・ これまで通りの活動ができるのであれば、重複する集会所施設を整理統合するのは問題ない。
② 地域の活性化 ・ 複合施設にイベントや商業活動の場を確保することにより、地域を盛り上げていくことを目指す。	・ 地域内で生産した農産物を販売できる場があると、観光客に販売できる。高齢者の生きがいにもなる。空き家を活用することで地域活性化の幅が広がっていくのではないか。
③ 文化の振興 ・ 文化を伝承・発展する場としての機能を、地域の中心となる複合施設に整備する。 ・ 生涯学習センター、公民館、図書館の機能を再編し、多様な方が集まることのできる拠点づくりを目指す。	・ 武道などのスポーツ振興も重要だと思うので、「文化とスポーツ」の振興してほしい。 ・ 大沢野地域には伝統文化が少ないが、地域の文化が豊かになるよう、祭りの振興や発表の場を設けてほしい。
④ 少子化対策 ・ 子育て環境の充実を図る。子どもの数に応じて、施設の新築を進め、機能が充実した場でサービスを提供する。 ・ 複合施設に子育て支援機能の導入を検討する。	・ どの様に相談したらよいかのわからない時があるので、適切な課を案内してくれる人がいると、子育て中の親も安心できるのではないか。
⑤ 利便性の確保 ・ 駐車場の確保、バスや鉄道などの公共交通機関によるアクセスを確保する。	・ バス本数の増加やコミュニティバスの運行をしてほしい。 ・ シルバークラウドはルールを改訂し、認知度を上げて利用を促してほしい。
⑥ 安全性の確保 ・ 集会所や学校、空き家、そのほかの公共施設のうち、安全なものを避難場所として指定する。 ・ 庁舎はより安全なものとし、災害時の待合室や情報発信室等を行う機能の確保を目指す。	・ 近隣の安全な避難場所があることは、最低限必要なことだ。 ・ 避難場所は、建物の安全性だけでなく、防火避難や備蓄庫庫など充実させてほしい。
⑦ 財源の確保 ・ 利用ニーズがなくなった施設の複合化、建替えの際の面積縮小を行う。	・ 人員が削減された職員だけでは管理が行き届かなくなるので、地域が管理の一部を行うことも考えられる。

<第4号>

**大沢野地域
まちづくりと公共施設の
「これから」を考えるワークショップ**

大沢野地域の
「地域別実行計画」と
「リーディングプロジェクト」の
内容についてお知らせします！

地域の皆様からいただいた、まちづくりや公共施設に対するご意見等をもとに、大沢野地域における公共施設の将来の再編方針を定める「地域別実行計画」と、行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討する「リーディングプロジェクト」の基本構想を策定しました。

これまでの検討の経緯

- 富山市では、地域の皆様からご意見をいただくため、ワークショップ（全4回）やオープンハウスの開催、ニュースレターの全戸配布を行ってきました。



ワークショップ

地域の29名の方に参加いただき、ワークショップを計4回開催して活発に議論を行いました。

オープンハウス

大沢野健康福祉センター「ウインド」で大沢野行政サービスセンターで、公共施設の再編方針とリーディングプロジェクト案をパネル展示し、ご意見をいただきました。

ニュースレター

地域にお住まいの皆様へ、情報提供を行い、ワークショップで検討されている内容や、地域のまちづくりや公共施設についてのご意見を拜りました。

お問い合わせ先

富山市企画管理部行政経営課
公共施設マネジメント推進係
電 話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail: gyousei-01@city.toyama.lg.jp

公共施設マネジメントに関する情報

「地域別実行計画」や「リーディングプロジェクト」に関する情報は富山市HPでご紹介しています。
HOME > まちづくり・市政 > 各種取り組み > 公共施設マネジメントに関する取り組み > 公共施設マネジメントについて

- 3) 文化の振興**
地域のお祭りなどを活かした文化コンテンツを伝承し、発展させる場としての機能を、地域の中心となる複合施設に整備します。複合施設においては、大沢野生涯学習センター、大沢野公民館、大沢野図書館の各機能を再編しつつ、行政サービスセンターやコミュニティ施設の機能とあわせ、多様な方々が気軽に集まることのできる拠点作りを目指します。
- 4) 少子化対策**
地域の子育て環境の充実を図ります。子供の数は将来的に減少していくことから、今後は施設の統合を進め、機能を集中させることし、集約された場でサービスを提供するようにしていきます。子育て中のご家族の方が、子育て以外の行政サービス提供もワンストップで受けられるように、また、多世代の方々で地域の子供の見守りできるように、複合施設に子育て機能を積極的に導入、集約化することで、サービス面を向上させることを検討します。
- 5) 利便性の確保**
公共施設の配置に関しては、アクセスのしやすさ、利用のしやすさなど、その利便性が損なわれないように配慮しています。また、複合施設や各地区の拠点へのアクセスについては、既存の交通手段を活かし、アクセスのしやすい配置とすることを基本とします。地域の利用者の方々を車を使っての利用も多いため、各施設には駐車場を確保します。将来的に学校を統合する場合には、スクールバスやタクシー等の通学のための交通手段を確保し、子供たちの通学に支障がない方策を検討します。
- 6) 安全性の確保**
地震や水害、けが崩れなどの自然災害に備え、避難拠点を地区単位で確保します。集合施設や学校、その他公共施設のうち、災害基準などの安全性が確保された施設を避難場所として指定します。行政サービスセンターには、災害時にインフラ等の復旧を行う部署を配置していくことから、庁舎は災害に対してより堅牢なものとし、富山市本庁舎の防災拠点機能を一部果たせない障害等が発生した時に備え、災害時の指令発出や情報集約等を担う機能の確保を目指します。
- 7) 財源の確保**
市全体の公共施設にかかる財源の削減の必要性に鑑み、利用ニーズの少なくなった施設の複合化等による整理縮小、また建替えの際の面積の縮小についてはやむを得ないこととします。今後は、専用のハコモにこだわらず、既存施設の積極利用や、建替えよりも長寿命化を図るなど、維持管理費を低減していきます。建物の管理については、地域の皆さんと連携を図っています。また、複合施設にするにより施設面積を効率化していくとともに、管理する職員が集中的に働けるようにするなど、組織の見直しを図るとや、ソフト面の工夫により、利用率の向上を図るとも検討します。

**メリハリを付けた
施設の管理**

**分散から
集中へ**

複合化して建替

人口減少時代に地域のコミュニティを維持していくためには、資産を集中して整備し、機能性を高めることが必要です！

老朽化した施設を機能を複合化して建替え、新たな賑わいを生み出す拠点にすることを目標とします！

地域別実行計画（公共施設の再編方針）

- ワークショップ等では、大沢野地域の公共施設の課題、課題に対する解決策など、様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を踏まえて、大沢野地域の公共施設の再編は、以下の方針で行ってまいります。

(1) 拠点となる施設等

- 1) 地域の公共施設再編の基本的考え方**
大沢野地域は国道41号沿線に居住と産業立地が並び、人口は今後も当該エリアに集中が続きみられます。富山市のまちづくりの方針である立地適正化計画においても、大沢野地域の北側の国道沿線に、居住や都市機能を誘導していく方針を定めています。従って、地域の公共施設についても、より利用者の多い当該エリアに重点的に配置することとします。それ以外の地区においては、避難場所などの防災安全性の確保や地域コミュニティの維持などに必要な最低限の機能を残していくこととし、例えば、下北地区、下南地区については、小学校区が同一の組入地域の公共施設の利用を図るなど、大沢野地域だけでなく、隣接する地域とも連携し、最適な施設配置を検討します。また、再編にあたっては、地区住民の意見も踏まえて検討を進めます。
- 2) 優先的に取り組むべき施策**
大沢野行政サービスセンター敷地、文化会館跡地のエリアにおいて、老朽化した公共施設の建替えを契機として、公共施設の複合化による集約を行います。地域の意見から、地域の文化を継承発展させる拠点づくり、子育て機能の集中配置、多世代の方々が集まることのできる場の確保、防災機能の確保を基本的なコンセプトとしながら、これらの機能を集中配置し、地域全体の方が便利に利用できる場を確保するとともに、多くの人が集まって新たな活動を創出して地域の活力を高めていくことを目指してまいります。

(2) 公共施設の再編方針

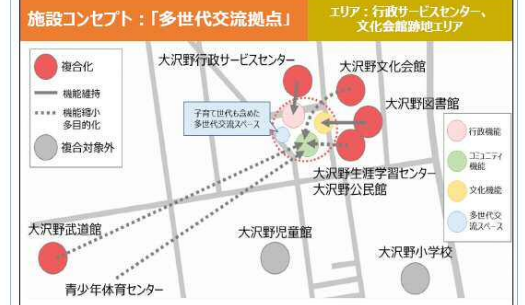
- 1) 地域コミュニティの維持**
既存の地域コミュニティを維持していくために、公共施設をその重要な場として位置付けます。生涯学習の場、地域の会合のほか、避難や消防団などの防災活動の場として、一定の人口に応じて、集合施設など、人の集まることのできる空間を地区ごとに確保します。これまでより、多世代の人々が多様なニーズで集まることのできる場を、できるだけ利用制約をなくして確保していくこととし、必ずしも独立した集合施設というハコモにこだわらず、学校の余裕教室や空き家の活用など、安全面に配慮したうえで、空間の形態は柔軟に考えていきます。また、新たに地域の中心に多世代交流拠点としての複合機能を設置します。地域の方々数が数百人規模で一室に集まることのできる空間や様々な社会教育やコミュニティ活動が行える場を確保します。大沢野生涯学習センターと大沢野公民館の集合機能を重視が見られることから、利用率などを勘案しつつ、規模や部屋の種類・数について整理統合を図ります。
- 2) 地域の活性化**
複合施設において、地域の方々の多くが集うイベントの実施やマルシェなどの商業活動を行うことのできる場をソフト・ハード双方の観点から整備することにより、観光客や高齢者の生きがいづくり、農産物の地産地消につながるなど、地域を盛り上げていくことを目指します。同時に地域の活性化に寄与する民間施設の誘致を検討していきます。

リーディングプロジェクトの基本構想

- 公共施設再編方針を踏まえ、行政サービスセンターを核として、公共施設の複合化による地域拠点形成のための基本構想を定めました。

リーディングプロジェクトの整備方針

◆リーディングプロジェクト概念図



- ◆整備する施設の内容**
- 大沢野行政サービスセンター、大沢野文化会館、大沢野図書館、大沢野生涯学習センター、大沢野公民館、大沢野武道館、青少年体育センターの機能を保持する複合施設を整備します。
 - 大沢野行政サービスセンターの施設規模は縮小しますが、現在のサービス機能は維持します。
 - 大沢野文化会館、大沢野武道館、青少年体育センターの機能は多目的スペースとして確保します。
 - 子育て世代も含めた多世代が交流できるスペースを確保します。
 - 行政サービスセンターには、災害時にインフラ等の復旧を行う部署を配置していくことから、庁舎は災害に対してより堅牢なものとし、
 - 地域の皆様に見せられ、誇りをもてる外観・デザインとなるよう設計とします。

- ◆想定スケジュール**
- リーディングプロジェクトについては、この基本構想を踏まえ、複合施設をより良いものとするため、平成31年度（2019年度）に民間事業者からの提案を求めながら基本計画を策定し、平成33年度（2021年度）の工事着手を目指して事業を進めていくこととしております。